

2 p P 4 6

沖縄県と佐賀県の中学生における精神的健康とライフスタイルに関する記述疫学

高倉実^{*1} 栗原淳^{*2} 堤公一^{*3} 和気則江^{*1} 與古田孝夫^{*1} 小林稔^{*4}

^{*1} 琉球大学医学部 ^{*2} 佐賀大学文化教育学部 ^{*3} 九州龍谷短期大学 ^{*4} 琉球大学教育学部

キーワード：生活ストレス、学校環境、地域比較

はじめに

先の保健体育審議会答申では、わが国の児童生徒における健康に関する現代的課題の多くは心の健康問題と大きくかかわっていると指摘している。また、昨今の官庁統計を観察してみると、わが国における児童生徒の精神保健は一樣に悪化していることは確かなことであろう。このような状況の下で学校における精神的健康問題の予防を考えると、全体の実態に合わせた全国一律の施策もさることながら、個々の地域の実情に合わせた対策が有効であることはいうまでもなく、そのためには精神保健や関連要因にみられる地域特性の詳細を明らかにする地域比較研究が必要となる。沖縄の場合、これまでに高齢者を対象とした長寿に関する地域比較研究が数多く展開され、沖縄の地域特性を示唆する知見が得られてきた。同様に、演者らは沖縄と佐賀の高校生を対象にその精神的健康や関連要因について地域比較を行い、両県の高校生の間いくつかの地域特性が存在することを明らかにしてきた¹⁾²⁾。しかし、これまでに中学生を対象として実証した研究はなく、両県の中学生の精神的健康や関連要因に地域特性がみられるかどうかはよくわからない。そこで、本研究では沖縄県と佐賀県の中学生を対象として精神的健康とその関連要因などの健康関連事象の頻度と分布、関連性を記述し、それに地域差が存在するかどうかを検討することを目的とした。

対象と方法

本研究では沖縄県全域と佐賀県全域の公立中学校の中から、調査について理解協力の得られた学校を各地区の在学生徒数に応じて、沖縄県 11 校、佐賀県 6 校を選び、各学年から抽出された 1~4 学級に在籍する生徒 4,177 名(沖縄県 2,393 名、佐賀県 1,784 名)を調査対象とした。調査対象のうち、調査当日の欠席者と調査拒否者を除いた 3,818 名(沖縄県 2,174 名、佐賀県 1,644 名)を分析に用いた。調査は学級において自記式無記名の質問紙法を用いて実施した。質問紙配布の際、回答を拒否しても良いことや拒否しても何ら不利益を受けないこと等を口頭および文書で説明した。なお、本研究の実施計画については、琉球大学医学部医の倫理審査委員会の承認を得ている。調査項目は対象者の人口統計学的要因(学年、性、居住地、世帯構造、通学方法)、生活様式(通塾、部活動参加、家族・地域行事への参加、起床・就寝時刻、睡眠、運動、朝食摂取、間食摂取、喫煙経験、飲酒経験)、精神的健康(抑うつ症状[CES-D]と怒り[S-Ang])、心理社会的要因(生活ストレス[ADES]、生活環境¹⁾、学校環境[WHOHBSC])であった。

結果

人口統計学的要因では居住地、世帯構造、通学方法に有意な地域差がみられ($p < 0.001$)。沖縄県は佐賀県に比べて都市部、核家族世帯、徒歩通学の割合が多い傾向にあった。これらの要因は交絡因子となり得るので、以後の分析ではその影響を調整した。生活様式では通塾、部活動参加、家族・地域行事への参加、起床・就寝時刻、睡眠、朝食摂取、喫煙経験に有意な地域差がみられ、佐賀県は通塾の割合が多く(沖縄 47%; 佐賀 61%)、部活動に参加し(沖縄 65%; 佐賀 78%)、家族行事にもよく参加している(沖縄 71%; 佐賀 79%)のに対して、地域行事には沖縄県の方がよく参加していた(沖縄 80%; 佐賀 73%)。また、佐賀県は遅寝早起きの傾向にあり適正睡眠時間をとっている者は少なかった(沖縄 71%; 佐賀 63%)。朝食を毎日食べている者は佐賀県に多く(沖縄 74%; 佐賀 84%)、喫煙経験のある者は沖縄県に多かった(沖縄 6%; 佐賀 2%)。運動、間食摂取、飲酒経験

には差がみられなかった ($p>0.05$)。表 1 に精神的健康と心理社会的要因の代表値を県別に示した。抑うつ症状に有意差はみられなかったが、怒りについては佐賀県が有意に高い値を示した。生活ストレスでは佐賀県の学業ストレスと友人関係ストレスのレベルが高かったのに対して、家族ストレスは沖縄県のレベルが高かった。また、住居環境、自然環境とも佐賀県の評価が高く、学校満足、生徒の係わり、教師サポート、生徒サポートも佐賀県のレベルが高かった。教師との関係ストレスと両親サポートには有意な地域差は認められなかった。表 2 に精神的健康と関連要因との偏相関係数を県別に示した。睡眠、運動、朝食、間食、喫煙、飲酒については望ましい行動に 1 点を与えそれらを加算して健康習慣指数として用いた。沖縄県と佐賀県のいずれの場合も、抑うつと学校満足との関連が最も強く、学校に満足している者ほど抑うつが低い傾向にあった。同様に沖縄県と佐賀県の怒りも学校満足と最も強い関連を示し、学校に満足している者ほど怒りが低い傾向にあった。さらに佐賀県の場合、怒りと教師との関係ストレスも強い関連を示し、ストレスレベルが高いほど怒りのレベルも高かった。偏相関係数の地域差を検定したところ、抑うつと家族ストレス、住居環境、学校満足との関連性および怒りと住居環境、部活動との関連性において佐賀県より沖縄県の方が有意に強く関連していた。

考察

中学生の抑うつ症状、怒り、学業ストレス、友人関係ストレス、自然環境、睡眠、運動、朝食摂取、喫煙経験の分布にみられた地域特性については、高校生を対象とした先行研究¹⁾でも同様の傾向が示された。精神的健康と関連要因の関係についてはいくつかの地域差がみられ、特に沖縄県の抑うつと学校満足、家族ストレスとの関連は強く、地域特性を表すものと考えられる。一方、沖縄県の高校生の場合、地域行事参加が抑うつに関連していたが²⁾、本研究の中学生にはこれらの関連は認められなかった。結論として、沖縄県と佐賀県の中学生の精神的健康と関連要因の分布および関連性にはいくつかの地域差が存在することが明らかになった。

表 1. 県別にみた精神的健康と心理社会的要因の代表値

	沖縄			佐賀			F [†]	p
	n	Mean	SD	n	Mean	SD		
抑うつ症状	1705	17.9	8.1	1492	17.7	8.0	0.53	0.467
怒り	2074	17.2	7.3	1619	18.4	8.0	9.65	0.002
生活ストレス	2008	10.3	8.2	1633	12.0	8.5	32.90	<0.001
学業ストレス	2017	6.1	8.4	1617	6.7	8.9	1.77	0.183
教師ストレス	2014	5.4	6.3	1607	4.7	5.8	7.02	0.008
家族ストレス	2056	2.8	4.4	1633	3.3	4.7	13.94	<0.001
友人ストレス	2052	11.5	3.0	1579	11.7	2.9	7.61	0.006
生活環境	2029	10.1	2.9	1583	11.1	3.0	60.26	<0.001
住居環境	2090	12.1	3.3	1610	12.5	3.2	20.87	<0.001
自然環境	2094	11.7	3.1	1608	11.9	3.1	8.07	<0.001
学校環境	2116	5.9	2.0	1620	6.2	2.0	21.57	<0.001
学校満足	2105	10.8	3.1	1609	11.2	3.2	13.42	<0.001
生徒の係わり	1952	10.4	3.6	1518	10.5	3.7	3.02	0.082
先生サポート								
生徒サポート								
両親サポート								

[†]居住地、世帯構造、通学方法を調整した。

表 2. 精神的健康と関連要因との偏相関係数[†]

	抑うつ症状						怒り					
	沖縄			佐賀			沖縄			佐賀		
	r	(n)	z	r	(n)	z	r	(n)	z	r	(n)	z
学業ストレス	0.35	(1609)	1.88	0.29	(1478)	1.60	0.25	(1939)	0.23	(1603)	0.59	0.59
教師ストレス	0.32	(1607)	1.60	0.27	(1473)	1.60	0.35	(1949)	0.41	(1592)	1.81	1.81
家族ストレス	0.42	(1608)	2.85	0.33	(1462)	2.85	0.36	(1946)	0.37	(1581)	0.22	0.22
友人ストレス	0.34	(1630)	1.11	0.38	(1480)	1.11	0.31	(1986)	0.35	(1605)	1.45	1.45
健康習慣	-0.26	(1619)	0.28	-0.25	(1475)	0.28	-0.18	(1954)	-0.22	(1602)	1.43	1.43
住居環境	-0.20	(1633)	1.98	-0.13	(1438)	1.98	-0.17	(2007)	-0.11	(1566)	1.99	1.99
自然環境	-0.17	(1611)	0.03	-0.17	(1441)	0.03	-0.15	(1984)	-0.12	(1569)	0.83	0.83
学校満足	-0.54	(1652)	2.19	-0.48	(1464)	2.19	-0.43	(2008)	-0.41	(1588)	0.46	0.46
生徒係わり	-0.32	(1666)	1.49	-0.28	(1466)	1.49	-0.36	(2010)	-0.37	(1584)	0.46	0.46
先生サポート	-0.26	(1674)	0.88	-0.23	(1475)	0.88	-0.24	(2032)	-0.26	(1596)	0.65	0.65
生徒サポート	-0.41	(1667)	1.21	-0.37	(1464)	1.21	-0.31	(2024)	-0.28	(1589)	1.12	1.12
両親サポート	-0.21	(1571)	0.34	-0.19	(1397)	0.34	-0.15	(1881)	-0.20	(1502)	1.42	1.42
部活動参加	-0.12	(1670)	1.42	-0.07	(1470)	1.42	-0.07	(2032)	0.02	(1592)	2.78	2.78
通塾	-0.03	(1681)	0.12	-0.03	(1479)	0.12	0.02	(2043)	-0.01	(1604)	0.91	0.91
家族行事参加	-0.13	(1688)	0.90	-0.10	(1483)	0.90	-0.09	(2053)	-0.11	(1607)	0.65	0.65
地域行事参加	-0.03	(1690)	0.90	-0.06	(1480)	0.90	-0.01	(2054)	-0.04	(1605)	0.78	0.78

[†]居住地、世帯構造、通学方法を調整した。

z 1.96の場合 $p<0.05$ である。

文献

- 1) 高倉ほか. 沖縄県と佐賀県の高中生における精神的健康とライフスタイルに関する地域比較. 学保研 44:2002. 印刷中
- 2) 高倉ほか. 高校生の抑うつ症状と心理社会的要因との関連にみられる地域特性. 日衛誌 57(3):2002. 印刷中

本研究は日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(C)(2)12670365 の補助を受けた。